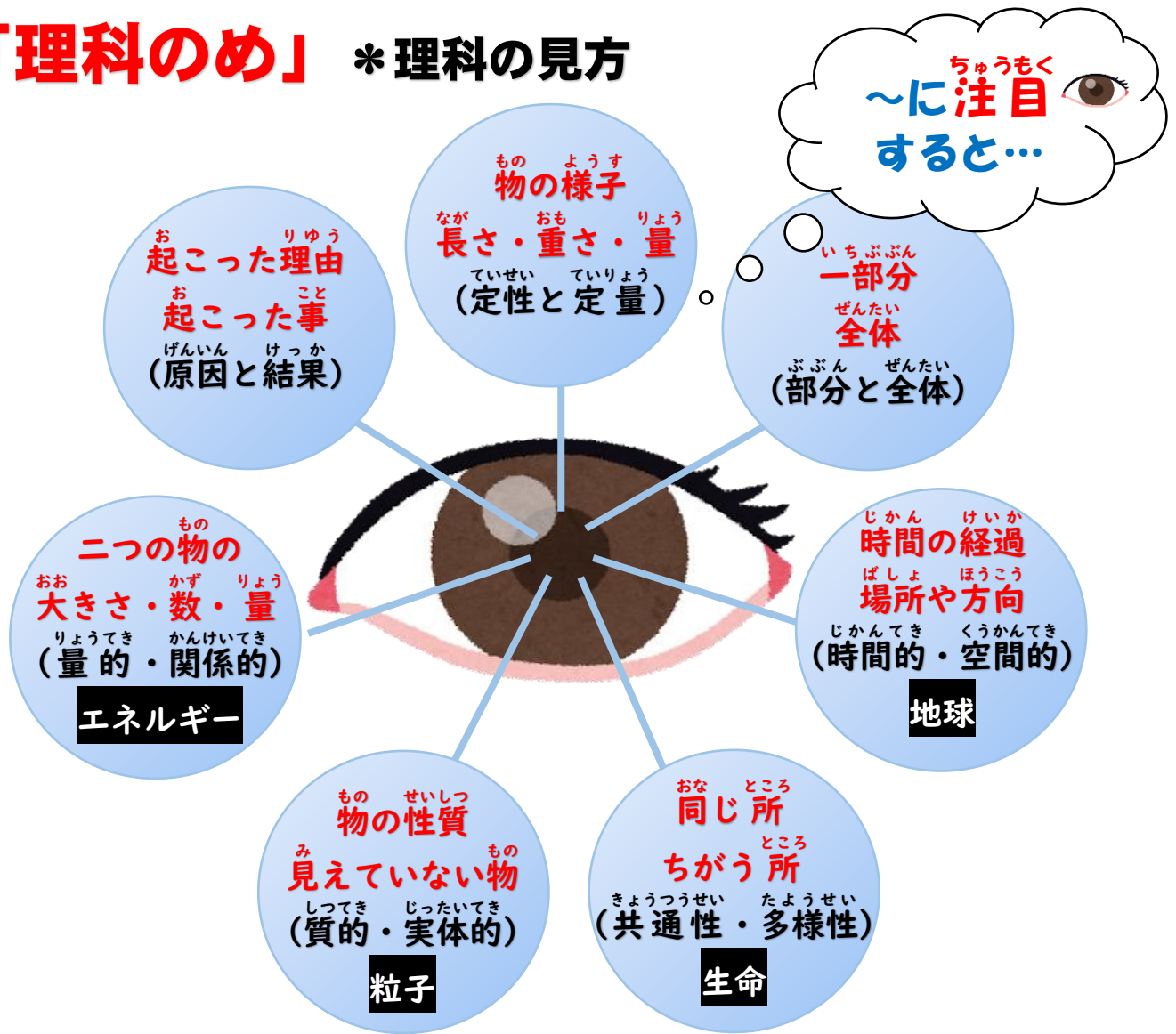
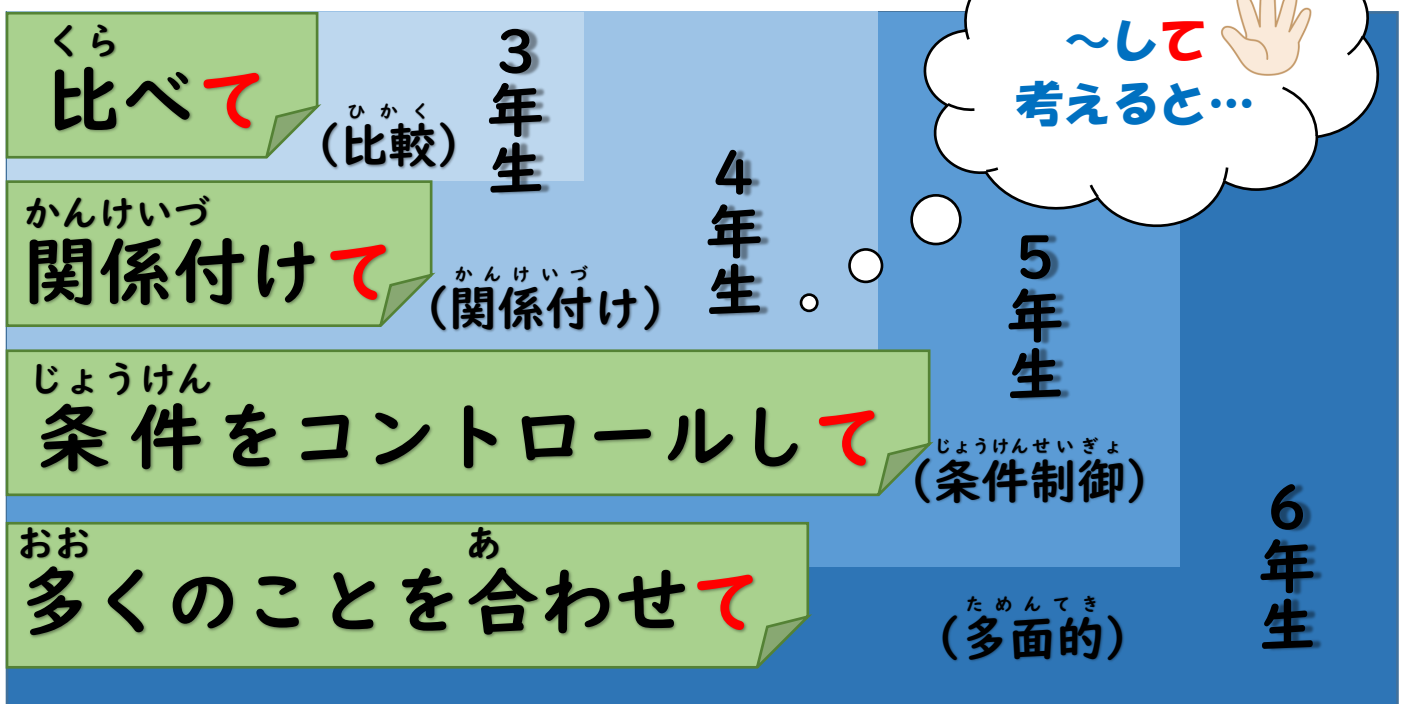


「理科のめ」 * 理科の見方



「理科のて」 * 理科の考え方



「理科のめ」「理科のて」の取扱説明書

令和5年度 恵那市立上矢作小学校

「理科のめ」「理科のて」とは…

「理科のめ」「理科のて」とは、学習指導要領で位置付けられている「働かせる理科の見方・考え方」をまとめたものである。「理科の見方」は、様々な自然の事物・現象等を捉える視点で、領域ごとの4つと領域に関わらず様々な場面で用いられる3つの合計7つが示されている。「理科の考え方」は、問題解決の過程において、どのように考えていくかを示したもので、学年ごとに4つが示されている。

理科のめ	<ul style="list-style-type: none">・「理科の見方」に対応。・見方は物事を見る目に関わるので、目をイメージして「理科のめ」とした。・働かせる見方をコンタクトレンズとし、それを目に付けて物事を見る様子を図に表している。
理科のて	<ul style="list-style-type: none">・「理科の考え方」に対応。・考え方は物事を考える手だてに関わるので、手をイメージして「理科のて」とした。・キーワードとなる言葉の文末が「～て」になるように表している。学年が上がるにつれて、活用する「理科のて」が増えていく様子も図に表している。

「理科のめ」「理科のて」の活用方法

① 年度初めに子どもに提示

- ・授業開きなどで、この表を子どもに提示し、このような見方・考え方をして理科の学習をするとよいことを伝える。
- ・この表を掲示したり、配付したりし、子どもが常時活用できるようにしておく。
*説明時に、その学年に合った具体的な例を示しながら、見方・考え方の説明をすると分かりやすい。
*理科の学習を進めていく中で、定期的に説明していくことが大切だと考える。

② 授業中に子どもの発言を価値付け

- ・「理科のめ」「理科のて」を使って、捉えたり考えたりした意見を価値付けていく。
例：「それは～の見方（考え方）だね。いい見方（考え方）をしているね。」
「理科のめ（理科のて）を使って物を見たり、考えたりしていいね。」
- ・「理科のめ」「理科のて」を表したカードを作成し、授業中、それらに関わる意見が出た際に、それらを黒板に貼って子どもに意識させていく。
*子どもが理科の見方・考え方を意識的に働かせながら課題を追究するためには、日々の授業の中で子どもの見方・考え方を価値付け、理科の見方・考え方を働かせることのよさを理解させていく必要があると考える。

③ 指導計画等への位置付け

- ・単元指導計画や本時の展開を作成する際に、「理科のめ」「理科のて」を、子どもの言葉にして位置付ける。
*具体的な子どもの言葉で表すことで、子どもがどんな発言をするとよいかが明確になり、教員が子どもの発言を価値付けることが容易になってくる。
*理科の見方・考え方の具体的な姿は、教科書やその指導書にも例が載っているので参考にするとよい。

参考文献：イラスト図解ですっきりわかる理科（著：鳴川哲也ほか、東洋館出版社2022年）

この「理科のめ」「理科のて」を、多くの先生方に活用していただくと幸いです。